

記者発表資料

首都圏中央連絡自動車道（かまりや釜利谷JCT～とつか戸塚IC（仮称）） 『環境影響の照査結果』についてのお知らせ

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の釜利谷 JCT～戸塚 IC（仮称）【高速横浜環状南線】は、平成7年4月の都市計画決定後、測量、調査、設計及び用地買収を進め、これまでに設計・用地説明が全線で完了し、用地進捗率は約99%（事業認定申請における事業地（起業地）を基にした取得率）となっています。

今般、国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所及び、東日本高速道路株式会社関東支社横浜工事事務所では、本事業における周辺環境の適切な保全を図るため、現時点での最新のデータと予測手法を用いて環境影響の照査を実施しましたので、その結果についてお知らせ致します。

[今回照査の主な結果]

大気汚染、騒音、振動及び低周波空気振動の環境項目について、今回照査を行った結果、それぞれの環境保全目標（低周波空気振動については参考指標）を満たしています。

今後、技術の進展やデータの蓄積を踏まえ、環境影響の調査検討を実施し、周辺環境の適切な保全に努めてまいります。

なお、本照査結果の詳細は、別添の参考資料のとおりです。

また、以下のホームページでもご覧頂けます。

よこかんみなみ (<http://www.yokokan-minami.com/>)

横浜国道事務所HP (<http://www.ktr.mlit.go.jp/yokohama/>)

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、神奈川県政記者クラブ、
横浜市政記者会、横浜ラジオ・テレビ記者会、鎌倉市広報メディアセンター

問合せ先

国土交通省関東地方整備局 横浜国道事務所 電話 045-311-2981(代表)

計画課長 おおたに あきら 大谷 彬

東日本高速道路株式会社関東支社 横浜工事事務所 電話 045-439-0180(代表)

工務課長 さとう しんご 佐藤 信吾 環境技術課長 なかやま ひろし 中山 宏

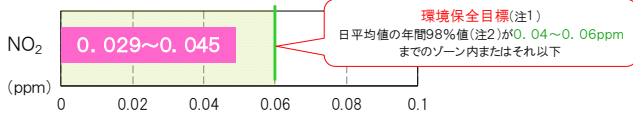
環境影響の照査結果(概要)



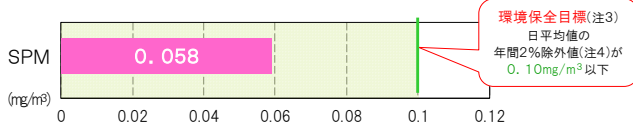
「大気汚染」「騒音」「振動」「低周波空気振動」について「環境影響の照査」を行い、4項目すべてで、環境保全目標※を満たす結果となりました。※低周波空気振動については参考指標

「環境影響の照査」は、高速横浜環状南線における周辺環境の適切な保全を図るため、最新データと予測手法を用いて実施したものです。以下のグラフはその結果の一部で、今回の照査で得られた予測値の範囲を示しています。

●大気汚染【二酸化窒素(NO₂)／浮遊粒子状物質(SPM)】

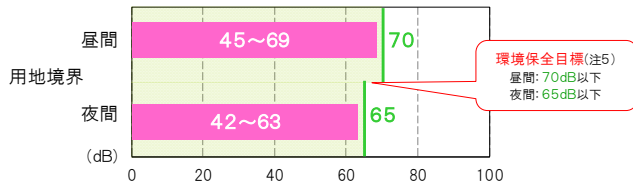


(注1)環境基本法に基づく二酸化窒素に係る環境基準
(注2)1年間の測定で得られた1日平均値のうち、低い方から98%目当たる値。
例えば、年間有効測定日が350日の場合、低い方から343番目(350×0.98=343)の値。



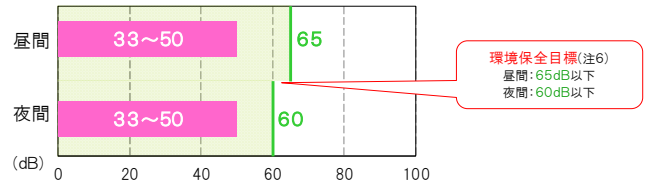
(注3)環境基本法に基づく浮遊粒子状物質に係る環境基準
(注4)1年間の測定で得られた1日平均値のうち、高い方から2%の範囲にある値を除外した後の最高値。
例えば、年間有効測定日が350日の場合、高い方から7個(350×0.02=7)を除いた最高値。

●騒音【昼間/夜間(午後10時~午前6時)】



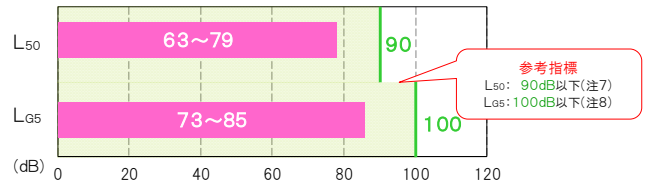
(注5)環境基本法に基づく騒音に係る環境基準

●振動【昼間/夜間(午後7時~午前8時)】



(注6)振動規制法に基づく道路交通振動の限度

●低周波空気振動



(注7)L₅₀(1~80Hzの50%時間率音圧レベル):一般環境中に存在する低周波音圧レベルの中央値。
指標値90dB以下では、人体に及ぼす影響を証明し得るデータは得られていません。
(注8)L₆₅(1~20HzのG特性5%時間率音圧レベル):ISO7196に規定されたG特性低周波音圧レベル。
G特性は超低周波音の人体感覚を評価する指標で、指標値100dBは平均的な被験者が観覚できるレベル。